

令和元年度 寄居小学校学校研究

主題：学びの過程に着目した授業デザインの確立を目指して
～学びの質を高める指導の工夫～

国語部



外国語部



国語科研究部

1 仮説

文章を読み取る力や、物事を適切に表現する力を身に付ければ、学びの質を高めることができるであろう。

2 手立て

- ① 説明文の授業デザインを確立する。
- ② 並行読書を行い、その単元に合わせた内容について関心を高めさせる。
- ③ 必要な材料を整理し、伝えたいことを明確に表現する活動を取り入れる。

3 研究の内容

(1) 授業デザイン

授業づくりシート

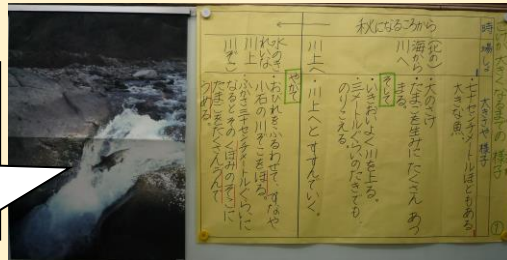
【国語科】	授業づくり
つかむ	【教材についての自分のイメージを発表する】
学習計画	・学習のめあてをとらえる。 ・教材文を読み単元を通して学ぶことの学習計画を立てる。
振り返り	【前時までの振り返り】
課題設定 見直し	・疑問形のめあてから、何について読み取るかを考える。 ・どんな順序で学習するかを考える。 ・キーワード（例、はたらき、つくりなど）
読み取る (気づき、発見)	・参考資料からきずな学習（気づき・発見） ・段落を読み取る。 (例 はたらき、つくりなど)
まとめ	・本時のまとめをする。 ・本時の振り返りをする。
深める (気づき、発見、確認)	・文型に沿って書き方を確認する ・自分が紹介したいものを決め、メモを書く
表現の習得	・説明文を書く
まとめ (発表・情報の共有)	○クラス → 説明文の発表。
振り返り	・説明文の教材文を通して、何を学んだのか振り返る。 ・自分が書いた文章と比べながら振り返る。 ・どんな表現方法があったか振り返る。

並行読書

授業デザインを確立することにより、基本的な流れに沿ってどの学年も説明文の授業を行うことができた。基本的な流れに沿って、1年生から説明文の授業を積み重ねていくことによって、学年が上がるに従い説明文の授業を児童が主体的に取り組むことができるようになっていく。



板書例
2年
「さげが大きくなるまで」



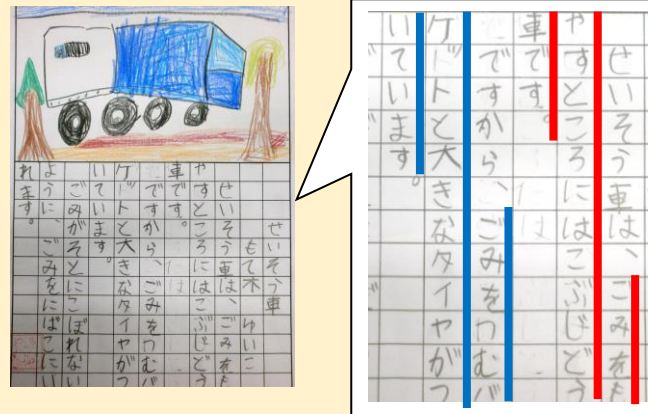
(2) 並行読書 (学年ごとの取り組み内容)




説明文では、児童の関心・意欲を高めるため、教材の内容と関連する本や資料を教室に置いた。

(3) 必要な材料を整理し、伝えたいことを明確に表現する活動

1年生の国語『はたらきとつくり』では、単元の前半に、自動車の「やくわり」と「つくり」を見つけて読んだり、書いたりする学習を行った。その学習を生かして、単元の後半では、並行読書で教室に用意した乗り物の本の中から、自分の好きな乗り物を決め、「やくわり」と「つくり」を探す（必要な材料）活動を行った。その後、作文にしてまとめた。（伝えたいことを明確に表現）

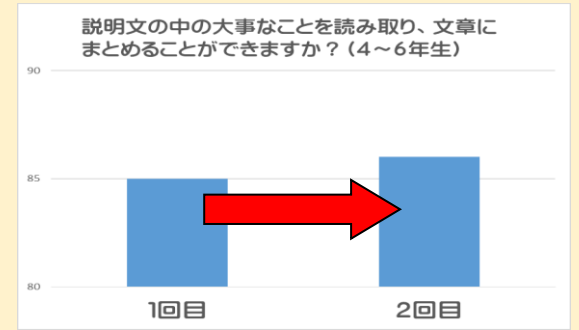
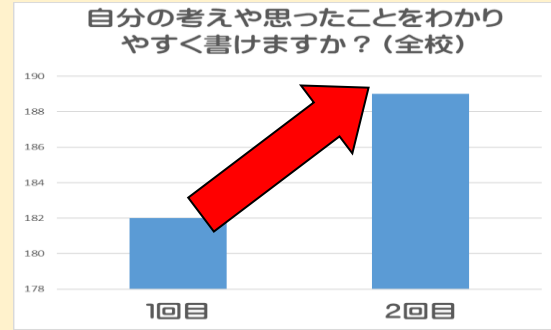


単元を通して、やくわり（赤線）つくり（青線）を意識させたので、自分でも見つけて書けるようになった。



2年生では、並行読書の中から作りたいおもちゃを選び、必要な材料を整理して設計図を作っておもちゃ作りをした。

(4) アンケートの結果より



アンケート結果より、全学年を通して自分の考えや思ったことをわかりやすく書けるようになったと感じており、伝えたいことを表現する力が身に付いたと感じている児童が多い。しかし、高学年の「説明文の中の大事なことを読み取り、文章にまとめる力」には大きな変化が見られなかった。

4 成果と課題

成果

- ・見通しをしっかりと立てることで、説明文に書かれた事柄に対し問題意識をもって読むことができた。
- ・並行読書を行うことで、読書に興味を持たせることができた。これにより、児童が主体的に本を読む姿が多く見られるようになった。また、教材に関係する本を読むことで、読書の幅を広げることができた。
- ・授業デザインの中に、「きずな学習」を位置付けることにより、他者の考えを聞くことができ、説明文の読みを深めることができた。

課題

- ・単元の配当時間の中で確実に読み取る力をつけていくためには、授業改善を実践し、読み取りを深めさせる手だてを研究していく必要がある。
- ・授業デザインについての基本的な形は先生方に示すことができたが、今後はさらに授業づくりがしやすいように研究を進めていきたい。
- ・並行読書を継続し、長文読解の力をつけさせていきたい。

外国語科研究部

1 仮説

児童が1つ1つの活動に目的意識をもって取り組めるような授業の流れをつくることで、学びの質を高める指導ができるだろう。

2 手立て

単元の目標を明確にし、1時間1時間のつながりが生かされる単元構成を考え、授業の流れをつくるために、授業づくりシートを作成・活用する。

3 研究の内容

- (1) 第1回アンケート調査
- (2) 課題の抽出
- (3) 授業をデザインするためのツールとして『授業づくりシート』の作成

【外国語科】の授業づくりシート				
何を学ぶのか	単元終わりの姿 (〇〇ができる、これからどう使えるか、どんなことに生かせるか 等)			
	本時に身につけたい力・できるようになること (〇〇が分かる、〇〇を言える、〇〇ができる 等)			
どのように学ぶか	活動	ゲーム 聞き取り (聞く) 単語を知る (聞く・文字・話す)	コミュニケーション活動 (話す・聞く) 練習 基本文を知る (聞く・文字・話す)	スピーチ (話す) スピーチメモ (書く) チャンツ (聞く・話す)
	導入	本時の課題設定 (本時に必要なこと) ↑ 単元のゴール = 目的意識 (なりたい自分)		

単元終わりの姿を明確にする。

時間毎の目標を設定することで、1時間1時間のつながりが生かされる単元構成を考える。

本時のゴールに到達するために必要な道筋 (活動) を考える。
ボックスを線で結び、活動時間や教科書のページなどを書きこむ。

単元の終わりを意識させ、本時のゴールを明確にし、児童に必要感をもたせる導入を考える。

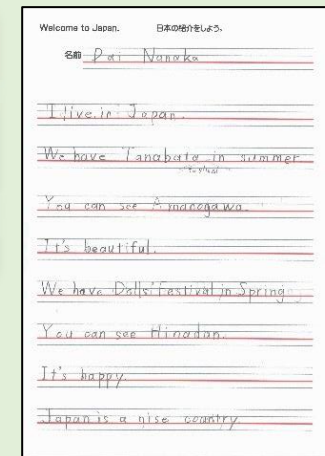
(4) 『授業づくりシート』を使った授業実践

①授業の様子



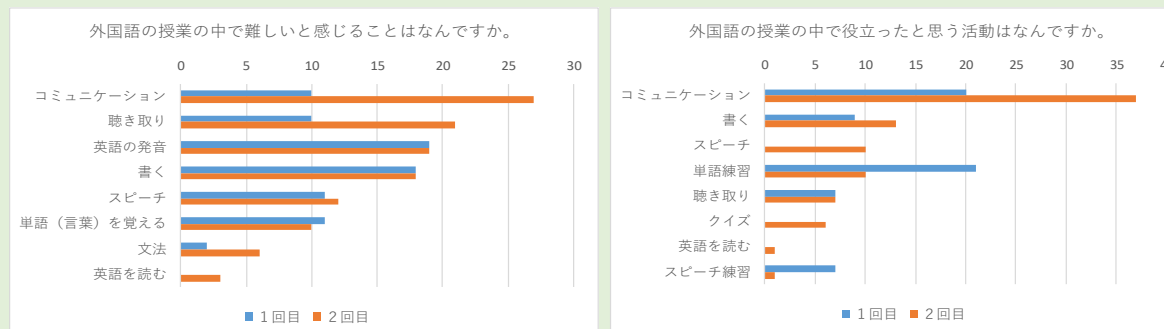
～活用した教員の感想～
 ・授業づくりシートを活用することによって、単元の目標が明確となり、見通しをもって授業に臨めた。
 ・時間毎のやりたいことや身につけさせるべきことを明確化できた。

②児童の Writing 例



(5) 第2回アンケート調査

①アンケート結果 (児童の自由記述から)



②考察

- ・単語を覚えたり練習したりすることよりもコミュニケーションやスピーチなどで表現することが大事であると児童の意識が変わり始めている。
- ・コミュニケーションや書く活動は難しく感じている児童は多いが、それと同時に身に付いた達成感や実践に生かせる良さも感じていると考えられる。

4 成果と課題

【成果】

- ・時間毎のやりたいことや身につけさせるべきことを明確化できた。
- ・授業の中に計画的に聴く・話す・書く等の活動を入れて授業を行うことにより、コミュニケーション活動が役に立つと考える児童が増えた。
- ・単元終わりの姿や各時間のゴールを明確にしたことで、コミュニケーションをするために必要な言葉を覚えたり、聞き取ったりと目的意識をもって授業に参加する児童が増えた。

【課題】

- ・これからシートを使って授業を考え実践していくなかで、作ったものを共有したり、「活動」の欄を必要に応じて作り替えていったりしていく必要がある。

◎成果

- ・各部とも「授業づくりシート」で、一回の授業や単元全体を見通し、子供たちに身に付けさせたい力を考えた授業づくりをすることができた。
- ・実践を通して、自分の考えや思ったことを書けるようになったり、コミュニケーション活動の大切さに気づいたりなどの変容が見られた。

◎課題

- ・昨年度までに積み重ねてきたものを、共通理解で実践できていなかった面があるので、今年度の研究成果は来年度以降も継続する。
- ・全国学力学習状況調査や県学力学習状況調査等で課題となっている長文読解などに焦点を当てて、さらなる授業デザインの改善を図りたい。

ご指導いただいた先生方

寄居町立用土小学校教頭

関口 葉子 様

寄居町立鉢形小学校教諭

齊藤 美佐子 様

